

文 化 七 年 庚 午 春 正 月 發 兌



高井蘭山子校

星月夜顯晦録

蹄齋北馬子画

二 編
五 冊

序

源 善 朝 卿
龜 陸 卿

顯晦録初篇刊布。今茲二編副成。夫
昔日右幕下草創大業也。雖以天
縱之洪量。秉特運。而非股心之
數輩為拏碎之力。則將焉得之
乎。如其考策戰勞。乃世俗所知。

門 遠 13
編 2208
卷 6

星月夜二編卷之二

何贅于此。至彼奸徒。尔精功臣。河黨妬志。忠良忽誅。昌山而不能。旦斃和田。當時如之。浦千葉以病卒。為僥倖焉。抑高帝起漢中。定之秦。分兵以北。禽魏。取代存趙。脅燕。東擊齊。南滅楚。而定天下者。韓信彭越黥布。同功。至世遠屬無事。殺信。醢越。亡布。皆夷之族。張子房避穀比赤松子遊。亦不冀乎焉。飛禽盡良弓。竈猪鹿獲走物烹。可謂和漢同日。該也。其間忠臣所為。智士所言。有為世

可^キ法^レ者[。]倭^レ族[。]所^レ業[。]謬[。]輩[。]所^レ語[。]有[。]
 造[。]次[。]可^キ警[。]者[。]都[。]以[。]為[。]今[。]日[。]得[。]失[。]乃[。]
 裨[。]益[。]不[。]少[。]者[。]歟[。]烏[。]文[。]化[。]已[。]已[。]
 复[。]至[。]日[。]東[。]武[。]高[。]井[。]伴[。]寬[。]思[。]明[。]題



星月夜顯晦録二編目錄

一之卷

- 頼家卿國吏と掲て遊興しし人
頼家卿蹴鞠と催しし人圖
- 頼家卿豆州奥野比持和田胤長と命し洞窟
小入しし
- 和田平太胤長伊東崎の洞窟と究る圖
和田平太胤長伊東崎の洞窟と究る圖
- 仁田忠常と命し富士の人穴と究る二品疾病を究る人
四郎忠常富士の人穴と入る圖
- 尼公比企判官能負が密謀と察しし人圖
尼公比企判官能負が密謀と察しし人圖

二之卷

○比企能負密謀露頭時政能負と一幡君を殺す

名越の亭は忠常運景を以て能負を捕ふ

尼云の以下知まらして諸軍北の所攻る

○牧の方奸計忠常と滅す

時政の亭は仁田忠常と餐應図

千幡君北条の亭より尼云の所へゆり

○實朝々三代の武將々々頼家禅室と伊豆へ移

稻毛入道奸計二品禅室と修禅寺は

三之卷

○牧の方奸計島山と殺さん

尼御臺二品禅室の薨逝と歎き

小山朝政島山重保諍論の圖

○時政島山と誅伐稻毛重成奸計島山重保武勇戦死

稻毛入道島山が媒書披露の圖

島山重保由比の濱に戦死の景

○武州二旗合戦島山重忠武勇戦死

重忠最期合戦勇力と頭と号

四之卷

○実朝々北条が亭より危難結城朝光君を翼佐

島山重忠又子の仙る夜朽つる号

名越の亭は涼風の宴と催と号

○時政落飾牧の方自害其時執権の職と續

実朝々作危難の号

時政遁世牧の方自害の号

○和田義盛吾妻助光の隨兵不系の罪と号

吾妻四郎助光射柳と頭と号

五之卷

○和田義盛格言且欵状をりつて上総の國司を所望と

善哉君御袴着の号

土屋宗遠梶原家茂と討号

○義盛土屋宗遠が罪と号

刑部丞兼時又其時を諫る号

藏人朝親が愛妾逐電の号

○胡貳公業騒乱と企北条時房高命を蒙り静謐

義盛騒乱と静人と企北条時房急使の号

編目畢

全 部 總 括

初 編

鎌倉二代頼家卿。武將不倣りあり。権原系時が隠謀。且諸士の所を侵余と逐之。滅亡す。忠太が智弁。武畧。城資。盛哉。後園。寺坂。筑城。佐々木。登。堀。入道。武功。よろて。静。濫。浅。利。与。市。坂。願。女。の。侍。と。ヤ。乞。妻。と。さ。る。不。倣。る。

二 編

君朝親。ス業。ヲ。所。論。以。交。討。り。再。争。論。益。裁。判。善。哉。丸。落。飾。義。盛。滅。忠。祐。言。北。条。朝。時。乃。松。島。と。奪。出。之。乃。朝。比。奈。秀。又。玄。慕。貞。操。と。守。り。て。自。害。尼。山。基。美。時。嫉。妬。奸。惡。泉。小。次。郎。隱。謀。安。念。法。作。又。税。客。と。頼。又。終。取。

三 編

由。利。惟。久。變。公。隱。謀。香。我。控。柄。胤。胤。長。面。博。せ。れ。美。時。と。向。答。尼。公。即。智。變。斷。産。柄。流。刑。之。事。を。美。盛。北。条。と。亡。さ。ん。と。行。和。田。湖。蓋。結。言。并。剃。髮。三。浦。義。村。表。之。義。盛。出。陳。山。所。西。北。兩。門。軍。義。秀。怪。力。敵。門。を。破。り。勇。哉。又。終。

四 編

朝。比。奈。仁。美。子。感。敵。を。助。る。り。和。田。一。門。を。軍。義。盛。滅。亡。之。秀。房。及。渡。る。実。然。々。入。宋。の。舟。を。大。船。を。造。じ。右。大。片。洋。架。の。為。坊。屋。社。系。禪。師。公。曉。之。紙。せ。れ。公。曉。伏。誅。頼。短。京。より。下。向。天。下。靜。濫。至。至。と。大。尾。と。

五 編

外戚専
持聰敏
匿遠東
流移風

源頼家卿
第三代ノ武
將聰明ノ君
ナリ和歌秀
王ノ世ニ兼倉
右大臣ト称
是也兼元元
正月廿七日
ノ公曉禪師
歿ラルニ
二十八



皇代前二編卷之一



比企左門尉能實
掃部九藤原遠宗頼朝御直
川二隨從入其男藤四郎之女
ヲ頼家卿へ召レ若狭屋号
一幡君談生外戚トシテ前
判官右工門尉ニ任ス此條ヲ
亡セト企事露レ蘇生九



時政室
牧の方
時政ノ後妻ナリ嫉妬奸悪ニシテ利口邪智ヲ巧ニス
勉テ衆ヲ詭害シ且大逆ヲ企遂ス竟ニ衣冠ニテ自亡ス

人間富貴如浮雲
萬家秋后執政穢

此條相模守義時
時政ノ男尼公ノ
兄ナリ父ニ嗣テ執
權タリ後陸奥守
ニ任ス元仁元年
六月卒ス六十二
歳



天地流り
日夜分
當付日分
懸也義

畠山次郎平重忠
平高望王男
鎮守府將軍
良兼七代教父
十郎武綱四代
畠山庄司重能男
無双剛力仁厚ノ君子也
元久二年六月廿二日諱者ノ
為ニ戦死四十二歳



一教見蓮葉
神仙不自媚子
采菊壽命

仁田四郎忠常
平氏三出テ平山季
重直実ホト祖ヲ
同入伊豆国住人ニテ
武勇強氣富主



人元入テ見ル北条
家ノ奸計ニ申



結城七郎 朝光

鎮守府將軍藤原秀卿七代小山下野大掾
政光三男也右幕下奥州征伐ニ隨從シ武功ヲ顯シ野呂結城ヲ賜ヒ
氏上七郎左衛尉ヨリ上野公ニ任シ入道ニテ日阿ト号ス武勇ノ家祿傑タリ

舌刀箠許克
莞衆
奈眼前極回
報何

稲毛三郎重成入道
小山田別當平右重男也島山重忠
從身ニテ祖ヲ同ス謀倭ノ小人ニシテ
賴家卿 重忠皆是ガ爲一世ヲ早
惡意露顯ニ依テ伏誅



星月夜顯晦錄二編卷之一

目錄

- 賴家卿國吏と捐て遊真一入
賴家卿蹴鞠を催しぬ圖
- 賴家卿豆州奥野川將和田胤長を命ト洞穴ふへし
和田平太胤長伊東崎の洞穴を究る圖
- 仁田忠常を命ト富士の人穴を究め二岳疾病を發しぬ

四郎忠常富士の人穴に入る因

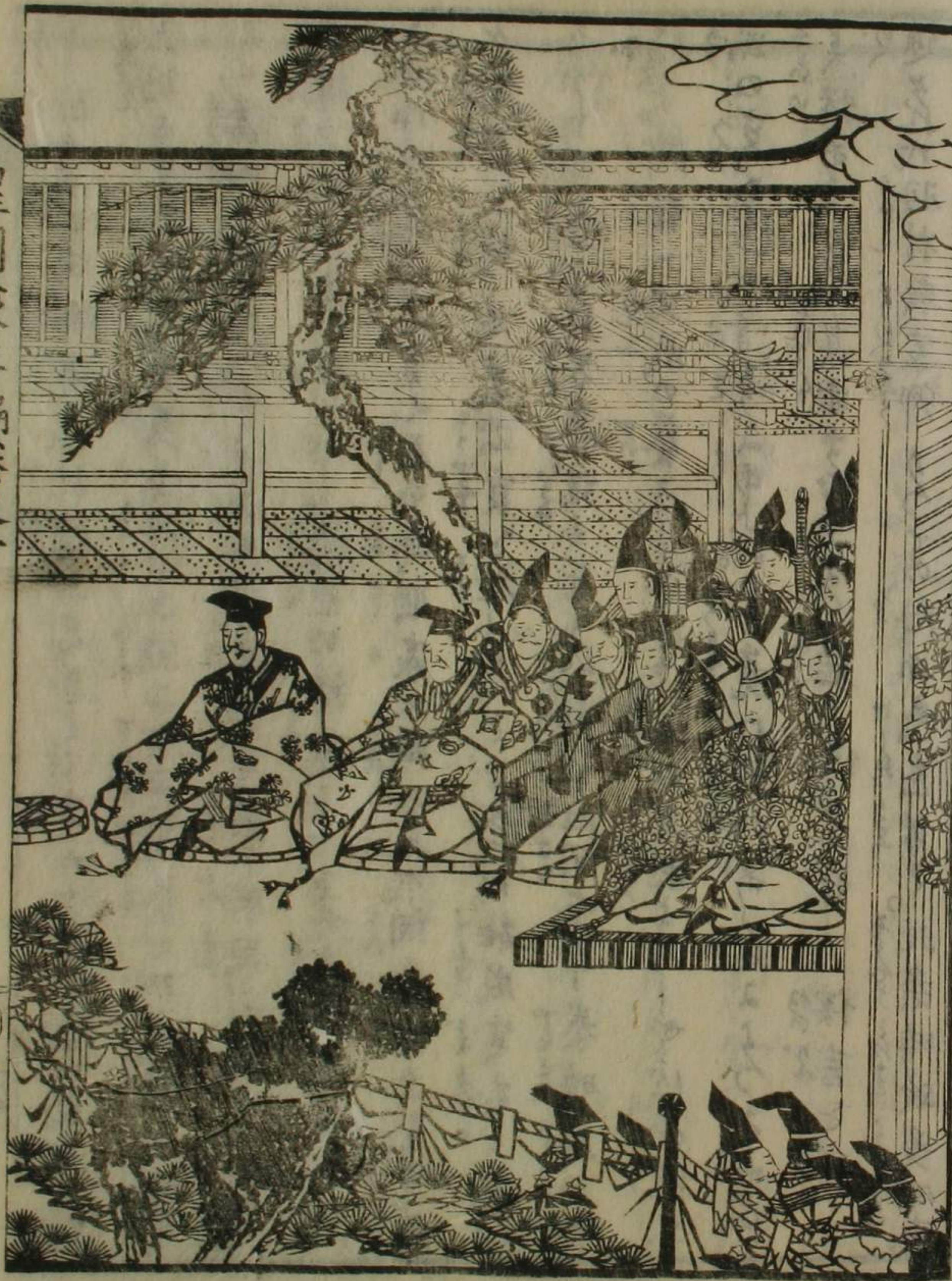
尼公比企判官能負が密謀を察し人因

星月夜顯晦録二編卷之一

頼家卿國貞を指し遊真一由

頼家將又興んとす時必ず頼家あり。國家は廢んとして時
 必に妖孽あり。天変地怪現るるんて人君を顧み徳と修む。
 笑ひ自ら滅ぶ。是故に徳を刻むる。後倉二代の武將頼
 家卿の比時、堀原景時、逆意を企て。後倉を傾んとす。業末は吉野
 城に即ち平永茂大謀を發し。後倉を傾んとす。業末は吉野
 に入て自滅し。甥資益越州鳥坂の嶽に籠る。依て本盤
 綱入道西念が武畧を推し。一族亡び。打続ての攻伐し
 自ら世より除く。静鑑及び万民を安んずるの如く
 此れ正しく。昼夜淫酒を宴し長し。國を破りて血氣の我





皇朝御紀



頼家卿
彌鞠
公
催
圖

皇朝御紀

の秋もさきよの定る。秋。當夏以来度々の大雨洪水也。田畑実少。
 難免。上。當八月の大風。家と倒され。田畑も損毛。困窮
 せり。大方る。去年。借米返納。乏。乏。罪
 せり。思。逐電を企。依。困窮を
 救ん。為。泰時策。上。馳。
 の天。改。亦。左。を。難。
 へ。退。去。見。と。企。の。外。の。僻。を。住。
 とも。少。く。領。分。の。民。困。窮。
 べ。借。米。又。於。て。去。年。を。強。く。も。返。納。
 安堵。せ。よ。と。去。年。取。並。と。る。建。文。を。取。
 皆。焼。捨。一。般。天。災。の。致。と。是。非。

若。悔。を。散。れ。樂。め。よ。と。念。比。よ。ナ。
 米。を。り。て。救。ひ。自。ら。領。分。を。順。見。
 姓。ホ。め。の。の。城。さ。よ。五。拜。を。投。
 化。團。を。移。る。を。手。を。中。と。
 憲。法。を。思。は。は。く。退。去。を。企。
 の。さ。ら。ば。中。慈。悲。の。中。
 子。孫。心。を。の。報。あり。と。泰。時。
 子。孫。心。を。の。報。あり。と。泰。時。

へ。却て人よ泰時が仁知は泰不之。移れどもいま若年といひ。祖父時
 政又美時あかゆへ公道は立障む。諫言とも直く申上る。其
 む。おと祖父と勅めく。廣直の道と説る。さよゆへは時政美時由孫
 ころ子とれども。泰時いひりくは者とあひし。移り其年中暮て
 建仁二年の春とる。頼家卿遊翰の托與増長し。其終は礼
 酒より及び。自然とれと失る輩出来る。尼に基所度と諷誅し
 ども。唯使あく仰越るゆへ。その當座のともあく。時去まぶる
 元のぞ。移るは今年正月十四日。上野國の一族新田家逝きあ
 了。親しは門家するよろく。遠まあめさぬ。仰は慎る。同
 月廿九日掃部入道か龜ヶ谷の宅あく。鞠のゆ會あり。殊更曠の後
 とくゆ用意頗結構之。その日は至く。あるり母君のゆはは達し。

大は驚死致うせむ。民部丞初光と云く。羽林家いまど出ぬ
 ぶ。以前は仰きするやう。今日化不ふおぬ。托宴の催ある
 上州の羽田家と源氏の遺老あく。當家の一門う。移るは當十
 四日遊し。いまど廿日あゆ及ぶ。移與を借る。我人の殘を思ひ
 ぬ。宜く遠まあて移る。のゆる。頼家卿さよおん出
 めんとさる。ゆ甚ふ不與の族子あけり。良替時ありて仰る。新
 新田の幸去承るゆあむ。但し持漁るん。遠まあゆ。鞠
 人の機嫌を論ぜる。りのよは。苦くあがる。とゆ返答あり。其
 是非信ごらん。ゆを察し。初光急ぎ馳帰。此段中より。尼に
 上の直く仰留らると。局達を供あく。石の壺のゆ所へ入る。ゆ
 対面の上。さよぐ。ゆ練言あつる。あぞ。羽林家もゆ母の仰力



和田平太
長
了
豆州伊東崎の
洞元と
究
母

里月文二編卷六十一

〇
八



里月文二編卷六十一

〇
九



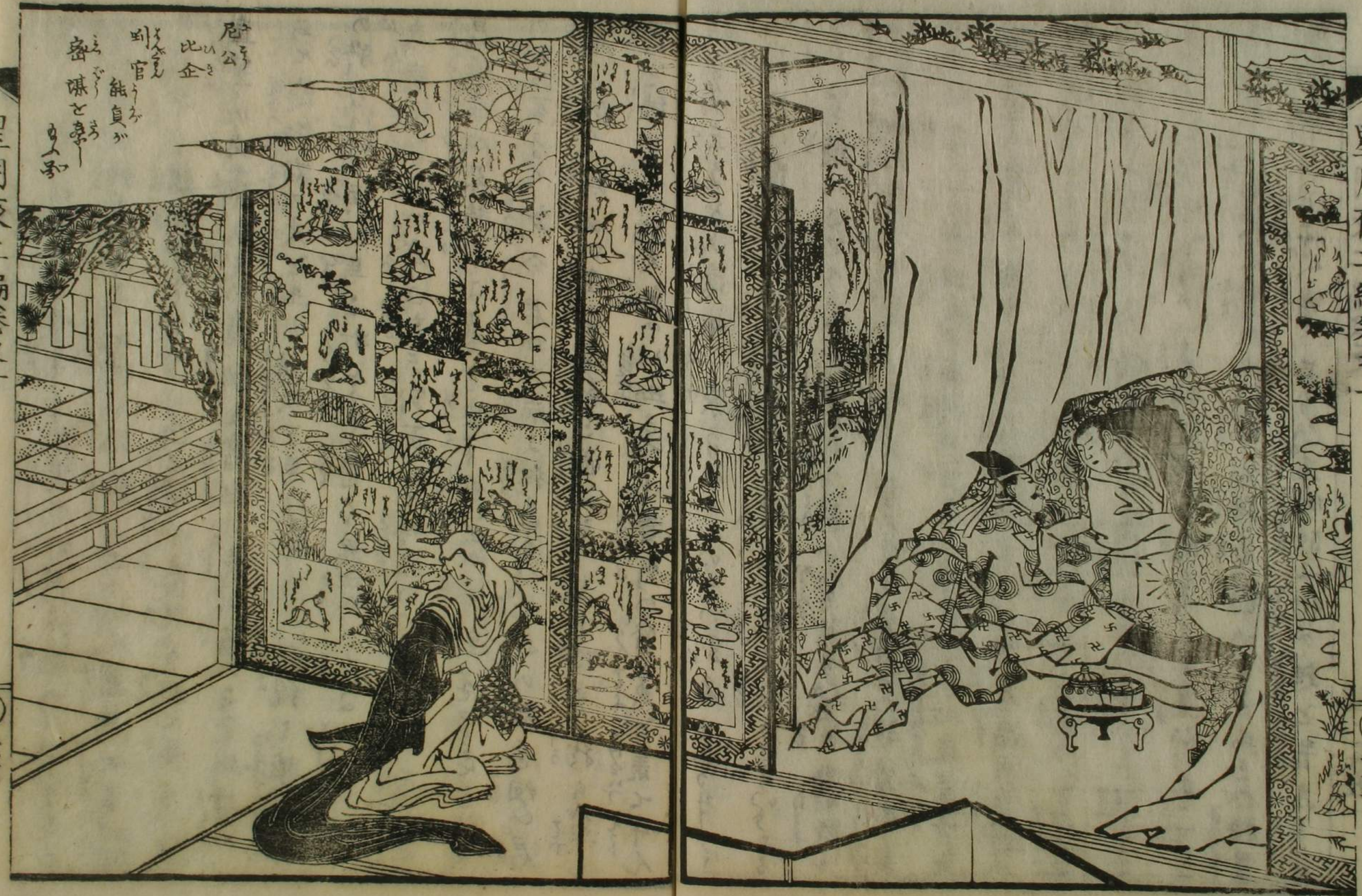
仁田四郎
忠常
富士の
人穴
八
因

受へたる。俄又その時郎従ホハ死し倒る。その官女がいつく。けぬハ
人間の身。処まあらば。あやまらうけ川辺にたつる。その命令
と預たはも又免さばと。時其名を名する。後余二品の
使あるより紙中。勇士なる者君命を慕う。爰はあやまらうけ川
命を生人といひ少少。去るがごとく死せし君再び使
とさし向らう。我が妻。命を損まざる。依て誓う。我が
命を預けぬ。君又獨りて使と見え裁されざる。振まひて
且、マカ使節の返報を終く。後命と絶りんやと述べしハ。
冥女の云。汝命を全せん。とら。帯せし劔を水中に投ぐべし。
我が全く帰らば。汝は二品に益の極。息を絶すべし。
ヤセ。且けぬの奇異と。洩し。結ば。汝が命亡べし。と教ふる。て。川
を投入。歸り。其の恙なく。穴の足。あつ。出いと。上。以外。奇特
教ふる。あつて。郎ホの死。巨細あれども。忠孝。交し。て。中。と。君
も又強て。勇。ぬ。も。ん。む。と。ふ。め。と。恐怖の。思。ひ。を。う。め。ふ。され。ども
忠常。その。荒。す。を。物。結。せ。太。事。君。あ。今。年。の。ハ。大。病。を
煩。ひ。も。ひ。の。後。又。伊。豆。國。に。移。り。比。企。結。負。を。縁。と。す。時。々。
忠。孝。大。切。を。形。す。る。が。時。即。時。は。終。害。す。と。し。ん。不。必。強。く。見。
古。老。の。云。く。此。洞。ハ。浅。間。の。川。在。死。す。と。く。往。昔。より。竟。ひ。よ
え。と。る。者。す。む。奇。特。ゆ。え。と。き。り。公。懼。ま。し。

仁田忠常は命に富士の人を究め先二品疾病發あり
叔由頼家卿ハ不二世より傳へせむひても。忠孝ハヤサシ。そのを
川に投ぐ。且。彼が郎ホも由死亡す。且。洞

中の吳女（れいご）の蒙（まう）めんと由量（ゆりやう）をばと。由公（ゆこう）馬（ま）をもめんと。七月廿日。俄（たちまち）に病（びやう）悩（なや）み死（し）す。公神（こうじん）を多（おほ）くと宣（のたま）ふ。是唯（こゝろ）つらふあはれと。貴僧（きそう）高僧（こうそう）又仰（おほ）て。祈（いの）禱（たう）を候（まを）せし。良菜（らうさい）佐（さ）使（し）の配劑（はいざい）をまれば。効驗（きうけん）更（さら）なる。甲（か）又（また）惟（ただ）獲（と）す。八月下旬。至（いた）る。既（すで）に危（あや）く。ををり。司天（してん）陰陽（いんやう）寮（りやう）の考勅（かうとく）ト。筮龜（しきん）の告（つ）る。知（ち）る。以（も）て。吳神（いじん）の崇（たう）と。是（こゝろ）より。社（や）又（また）幣（へい）使（し）をます。且（かつ）有（あ）驗（けん）の碩（せき）徳（とく）を集（あ）めり。丹（たん）祈（いの）の法（はう）力を施（ほ）す。むけ。有（あ）り。柳（やなぎ）若（わ）弱（じやく）を免（ま）はる。と。以（も）て。更（さら）に。本（ほん）復（ふ）る。と。辭（ことば）より。在（あ）る。孫（そん）倉（くら）の老（らう）臣（しん）。執（しやく）士（し）。日（にち）々（々）。群（ぐん）衆（しゆ）。以（も）て。祈（いの）禱（たう）と。いふ。何（なに）人（ひと）。君（きみ）より。存（ぞん）命（めい）。覚（さく）東（とう）より。必（かなら）ず。と。然（しか）し。大臣（だいじん）を。召（め）す。小（せう）家（け）督（とく）の美（み）を。以（も）て。遺（い）言（げん）。又（また）乃（すなは）ち。關（かん）西（せい）。三（さん）十（じゆ）八（はち）ヶ國（こく）と。以（も）て。由（ゆ）舎（しゃ）。守（しゆ）千（せん）懐（くわい）君（きみ）。は。又（また）其（その）名（な）と。又（また）鑿（さく）り。由（ゆ）。關（かん）東（とう）。二（に）十（じゆ）八（はち）ヶ國（こく）。英（えい）。越（えつ）。追（おひ）。捕（と）。使（し）の。職（しやく）を。以（も）て。以（も）て。嫡（ちやく）男（なん）。一（いつ）。懐（くわい）君（きみ）。又（また）鑿（さく）り。由（ゆ）。君（きみ）の。中（ちゆう）。腹（ぶく）。若（わ）。狭（せ）。局（きやく）と。号（ごう）す。比（ひ）。企（き）。判（はん）。官（くわん）。社（しゃ）。負（ふ）。か。娘（むすめ）。之（これ）。以（も）て。社（しゃ）。員（いん）。外（がい）。威（い）。の。威（い）。強（きやう）。我（われ）。之（これ）。の。報（ほう）。廻（くわい）。ま。り。り。二（に）。品（ひん）。小（せう）。大（だい）。病（びやう）。危（あや）。急（きゆう）。る。み。つ。死（し）。由（ゆ）。家（け）。督（とく）。又（また）於（お）。て。小（せう）。初（しよ）。年（ねん）。る。れ。ど。由（ゆ）。嫡（ちやく）。子（し）。之（これ）。一（いつ）。懐（くわい）。君（きみ）。へ。鑿（さく）。り。由（ゆ）。左（さ）。あ。り。我（われ）。外（がい）。組（ぐみ）。と。を。以（も）て。北（きた）。条（じょう）。の。持（ぢ）。威（い）。を。懸（けん）。く。由（ゆ）。又（また）。歸（かへ）。せ。り。由（ゆ）。榮（えい）。を。究（きゆう）。ん。と。欲（ほつ）。る。の。如（ごと）。し。今（いま）。の。由（ゆ）。遺（い）。命（めい）。家（け）。督（とく）。ハ。若（わ）。君（きみ）。と。り。ど。の。關（かん）。西（せい）。三（さん）。十（じゆ）。八（はち）。ヶ國（こく）。と。由（ゆ）。舎（しゃ）。又（また）。鑿（さく）。り。由（ゆ）。社（しゃ）。員（いん）。大（だい）。又（また）。怨（おん）。を。憤（ふん）。り。所（しよ）。詮（せん）。北（きた）。条（じょう）。一（いつ）。家（け）。と。亡（な）。し。六（む）。十（じゆ）。余（よ）。州（しゆう）。悉（しつ）。く。若（わ）。君（きみ）。又（また）。鑿（さく）。り。由（ゆ）。外（がい）。威（い）。と。り。つ。て。り。紙（し）。斗（と）。んと。横（よこ）。之（これ）。の。企（き）。を。り。則（すなは）。息（そく）。女（にょ）。乃（すなは）。局（きやく）。を。以（も）て。君（きみ）。又（また）。告（つ）。り。由（ゆ）。云（い）。ふ。由（ゆ）。遺（い）。言（げん）。又（また）。日（にち）。本（ほん）。三（さん）。半（はん）。を。以（も）て。由（ゆ）。舎（しゃ）。又（また）。了（りやう）。

君（きみ）。は。又（また）。其（その）。名（な）。と。又（また）。鑿（さく）。り。由（ゆ）。關（かん）。東（とう）。二（に）。十（じゆ）。八（はち）。ヶ國（こく）。英（えい）。越（えつ）。追（おひ）。捕（と）。使（し）の。職（しやく）を。以（も）て。以（も）て。嫡（ちやく）男（なん）。一（いつ）。懐（くわい）君（きみ）。又（また）鑿（さく）り。由（ゆ）。君（きみ）の。中（ちゆう）。腹（ぶく）。若（わ）。狭（せ）。局（きやく）と。号（ごう）す。比（ひ）。企（き）。判（はん）。官（くわん）。社（しゃ）。負（ふ）。か。娘（むすめ）。之（これ）。以（も）て。社（しゃ）。員（いん）。外（がい）。威（い）。の。威（い）。強（きやう）。我（われ）。之（これ）。の。報（ほう）。廻（くわい）。ま。り。り。二（に）。品（ひん）。小（せう）。大（だい）。病（びやう）。危（あや）。急（きゆう）。る。み。つ。死（し）。由（ゆ）。家（け）。督（とく）。又（また）於（お）。て。小（せう）。初（しよ）。年（ねん）。る。れ。ど。由（ゆ）。嫡（ちやく）。子（し）。之（これ）。一（いつ）。懐（くわい）。君（きみ）。へ。鑿（さく）。り。由（ゆ）。左（さ）。あ。り。我（われ）。外（がい）。組（ぐみ）。と。を。以（も）て。北（きた）。条（じょう）。の。持（ぢ）。威（い）。を。懸（けん）。く。由（ゆ）。又（また）。歸（かへ）。せ。り。由（ゆ）。榮（えい）。を。究（きゆう）。ん。と。欲（ほつ）。る。の。如（ごと）。し。今（いま）。の。由（ゆ）。遺（い）。命（めい）。家（け）。督（とく）。ハ。若（わ）。君（きみ）。と。り。ど。の。關（かん）。西（せい）。三（さん）。十（じゆ）。八（はち）。ヶ國（こく）。と。由（ゆ）。舎（しゃ）。又（また）。鑿（さく）。り。由（ゆ）。社（しゃ）。員（いん）。大（だい）。又（また）。怨（おん）。を。憤（ふん）。り。所（しよ）。詮（せん）。北（きた）。条（じょう）。一（いつ）。家（け）。と。亡（な）。し。六（む）。十（じゆ）。余（よ）。州（しゆう）。悉（しつ）。く。若（わ）。君（きみ）。又（また）。鑿（さく）。り。由（ゆ）。外（がい）。威（い）。と。り。つ。て。り。紙（し）。斗（と）。んと。横（よこ）。之（これ）。の。企（き）。を。り。則（すなは）。息（そく）。女（にょ）。乃（すなは）。局（きやく）。を。以（も）て。君（きみ）。又（また）。告（つ）。り。由（ゆ）。云（い）。ふ。由（ゆ）。遺（い）。言（げん）。又（また）。日（にち）。本（ほん）。三（さん）。半（はん）。を。以（も）て。由（ゆ）。舎（しゃ）。又（また）。了（りやう）。



尼公
比企
能貞
密味
和

尾形

尾形

ありんとして尋ねぬ人も。唯今や七遠明の所は在つる。今日も
 名越の宿所よふわく。時政日比造立たる如の薬師如來供養
 の為早く退出のよくとす。尼公女房達を以て告ありんと
 直筆の文章よその麓組と書記。急死する如。途中
 みて走り右の文と出。時政下馬して之を披読し。頗憤り
 の辨るしが再び馬よ打寄り。暫く思案し。直は大江大膳大
 夫廣元朝臣の亭よ赴き。對面して時政のい。延尉員若
 君誕生以来持威よ募り専ら我々の奉動を為す。法入
 の如く不る。刺今君は大病よ犯さる。忙務の期を伺ひ。君
 命と偽り。謀反の企を為す。慥よその告を以て。於ら早く
 是と誅せんと。大乱の川出さる。貴所の賢慮と兼て斗ん

とり。廣元のい。能員幕下君の如時より。罷遇を以て。
 政道扶翼の名ある。兵法よおわく。その是非を兵する男之
 殊戮の美よおわく。以賢慮を以て。斗るべしと返答あり。時
 政收び。急死宿所よ歸り。仁田四郎。天野民部丞入道蓮系
 木を招け。能員殊戮の事を。残を忠常とて。出。彼は兵道よ
 疎き匹夫。殊とるよ。易し。然ととも軍士。老んせん。一
 族郎木よ。其の強動よ。只今。遣主の。幸ひ。
 其の如く。呼。誅せんとせん。竹条の。人。と。り。ゆ。げ。
 ナせし。時政を。世の人口を。一人の。為
 する。ぬ。を。殊。人。よ。使。を。以。て。廣。元。を。招。く。廣
 元の使を以て甚ど。公勝を。當時世上。靜る。

斗^{たう}美^びの^のる^るれ^れ又^又あ^あら^らむ^む。其^{その}終^{つひ}む^むる^るま^まの^の身^みを^を情^{じやう}も^もみ^みべ^べと^とす^す。万^{まん}
 一^{いつ}謀^{ぼう}斗^{たう}洩^{びやう}す^すえ^え。弘^{こう}明^{めい}の^の使^{つか}る^るふ^ふん^ん由^{よし}量^{りやう}が^が。夫^{その}も^も是^{こゝ}非^ひ出^であ^あら^らぬ^ぬ。
 宜^{よろ}く^く兵^{へい}具^ぐを^を調^{てう}へ^へ郎^{らう}木^{ぼく}残^{ざん}ら^らむ^む。兵^{へい}連^{れん}ら^らむ^むべ^べと^と殊^{しゆ}り^り。能^{よく}自^{みづか}然^{かに}ひ^ひ
 竹^{たけ}条^{ぢやう}さ^さる^ると^とあ^あら^らん^んや^や。時^{とき}政^{せい}が^が仏^{ぶつ}像^{ざう}の^の若^{わか}く^く笑^{わら}ふ^ふ。誤^ごく^く人^{ひと}を^を疑^ぎみ^み
 却^{かえ}て^て乱^{らん}を^を生^{せい}む^むる^るの^の古^こ言^{げん}あ^あら^ら。若^{わか}兵^{へい}具^ぐを^を帶^{たい}し^し郎^{らう}木^{ぼく}條^{ぢやう}ま^まら^ら
 連^{れん}は^は。人^{ひと}性^{せい}が^が騷^{さう}動^{どう}す^す。殊^{しゆ}は^は仏^{ぶつ}の^の左^さ脇^{わき}の^の出^で立^{たち}の^の似^に合^あは^ある^る
 り^りあ^あら^らむ^む法^{ほう}會^{かい}の^の軍^{ぐん}さ^さる^る不^ふ裏^りさ^さる^る。大^{たい}志^しを^を測^{そく}る^るの^の何^{なに}ぞ^ぞし^しら^ら
 を^を知^ちる^るや^やと^と。大^{たい}丈^{ぢやう}夫^ふの^の死^しを^をる^る。練^{れん}を^を用^{もち}む^む七^{しち}八^{はち}人^{にん}を^をり^り。卒^{そつ}
 常^{じやう}の^の装^{さう}束^{そく}水^{すい}于^よ葛^か袴^{かほ}を^を总^{そう}し^し。名^な越^{えつ}の^の亭^{てい}へ^へと^と赴^{おもむ}き^き運^{うん}の^の行^{ぎやう}を^を
 是^{こゝ}非^ひら^らむ^む也^や。

星月夜頭晦録二編卷之一終

